

子どもの元気な声を 響かせたい!

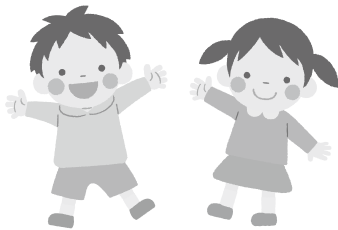
～地域の魅力をサポートします～
われら地域おこし協力隊

着任のごあいさつ

「子どもの元気は地域の元気プロジェクト」担当（松ヶ崎・岩首地区）^{ちようなん}長南 ^{じゅんこ}潤子

9年前、仕事で佐渡に来てたくさんのステキな方々と出会い、佐渡の宝は「人」だと感じました。もっと佐渡の皆さんと深く関わりたいと協力隊に応募し、東京から移住してきました。

担当地区にある松ヶ崎小中学校（小中連携校）は、全校生徒18人。少人数ならではの魅力的な教育が行われている一方、学校存続の危機に直面しています。そのような中、保護者たちが学校と地域の未来を守ろうと「子どもの元気は地域の元気プロジェクト」を立ち上げていました。その熱い思いに心打たれ、私も仲間になりたいと希望しました。



私のミッションは、松ヶ崎・岩首地区に子どもを増やすこと。移住者や島内からの転入希望者にとって、より魅力的な地域にするべく、放課後の子どもの居場所を作ることや、空き家の活用、広報を担当します。大好きなこの地域に、もっと子どもの声が響くよう、そして「佐渡は子どもが元気な島」として知ってもらえるよう全力を尽くしたいと思います。

佐渡の皆さま、よろしくお願ひします

☎地域振興課地域振興係 ☎63-4152

市立病院から こんにちは

相川病院 看護部

「新型コロナウイルス感染症から 仲間を守ろう」

仲間を守ろう

5月14日に、新潟県の「緊急事態宣言」が解除されました。しかし、気を緩める訳にはいきません。すでに、感染の第2波は世界中で起こりつつあります。

相川病院はこの感染症について、11回程勉強会や検討会を全職員自由参加で行ってきました。その時が来たら、事務も技師も職種に関係なく、オムツ交換などの濃厚接触機会もあり得ると考え、防護服着脱の訓練も行っています。

院内感染は高率に発生しており、5月6日、ジュネーブに本部がある国際看護師協会は、世界全体で新型コロナウイルス感染症に感染した医療従事者は、少なくとも9万人を上ると発表し、死亡した看護師は260人を超えると推計しています。その理由の一つとして、無症状の人からの感染が相当数あって、咳やくしゃみをしていなくても、そばで大きな声を出されただけで感染することもあり、

マスク着用でも安心はできません。

IPS細胞の発見者である山中先生は、ワクチンができるまでの「3大重要事項」として、①身体的距離の拡大、②感染者の隔離、③接触者の追跡を挙げています。

市民の皆さまが取り組むことができるのは身体的距離の拡大で、人の集まる場所への不要不急の外出を控えること、3つの密（密集、密閉、密接）を避けることです。

長い戦いになるかもしれませんが、島民一丸となって新型コロナウイルス感染症から仲間を守ろうではありませんか。今回は相川病院の寺島先生です。

